

## 第7回マンション・クリエイティブリフォーム賞総評

マンション・クリエイティブリフォーム賞審査委員会  
委員長 秋山哲一

マンション・ストックも 600 万戸を超え、築後 30 年を経過したのも 100 万戸を超えている。これらのマンションを適切に維持管理し長寿命化を図るとともに、機能や資産価値の維持向上を図っていくことが、これからの住宅・不動産市場の重要な柱である。

マンション・クリエイティブリフォーム賞は、主催者であるマンション計画修繕施工協会（MKS）がマンション計画修繕工事の施工者専門団体であるという意味で、マンションの大規模改修工事を担っている現場担当者の創意工夫を拾い上げ、ハードな技術力としての新しい改修技術や提案とともに、ソフトな技術力としての関係者の合意形成を図りつつ実行に移していくプロセスを社会に「見える化」していこうという試みである。

今回でマンション・クリエイティブリフォーム賞も第 7 回目となる。マンションの計画修繕工事において、マンションの機能や性能を維持・向上するための具体的な提案のみならず、施工者の立場からの日常的に取り組んでいる建築生産プロセスに焦点をあてた創意工夫の提案を期待している。

さて、審査委員会では、そうした応募物件の中から厳正に受賞者選定を行い、最終的に授賞対象の 1 物件を選定した。

今回は、築後 30 年を超える高経年マンションの計画的、総合的な大規模改修工事においてそれぞれ独自の機能・性能の向上を図った事例を中心とした応募があり、その中から耐震改修に創意工夫を取り込んだ事例をクリエイティブリフォーム賞として選定した。また、クリエイティブリフォーム大賞については該当なし、とした。

今回の受賞の対象となった事例は当該マンションの耐震補強工法として、主棟の耐震補強にアウトフレーム工法による補強を行うのではなく、3 階建の既存副棟を接合させるという工夫を行うことにより耐震改修のコスト削減も実現したという事例で、合わせて計画修繕工事を実施している。

こうした工夫を積極的に社会の公開し、マンションリフォーム業界として共有のノウハウとして蓄積していくことを期待したい。

以 上